

地域をフィールドにした 徘徊見守り体験を！



国分寺・生活者ネットワーク 高瀬 かおる

◆住宅施策について、安全で安心な住環境の形成や空き家等の活用を推進するためにも、各住宅が良好な状態を保つ必要がある。住宅に関する施策は多く、補助金制度も様々ある。住宅に関する市民の相談窓口の一元化を求める(答)4月の機構改革で部分的に体制づくりを図ったが、防災や環境、福祉など多くの部署と関わることから、総合的に所管する部署の検討も必要。

◆障がい者就労支援について、「働く」を選択できる環境が重要。就労支援センターを中心に、商工会や多摩信用金庫等が参加する「就労支援地域連絡会」と連携し、職場開拓の強化を！(答)障がいのある方と地域や企業の接点を増やす等、地域全体で雇用促進する土壌をつくりたい。商工会等にもご協力いただき、地域の企業を訪問し雇用への働きかけを行うなど考える。

◆いきいき農園の障害者団体利用ゾーンの応募が今年度はない。農と福祉をつなぐ観点から、幅広い福祉関連団体が区画をシェアするしくみに変えてはどうか。市民参加での検討を提案。(答)法的な規制も勘案しながら、いろいろな側面を持たせた見直しを図っていく

◆地域福祉について、地域福祉推進協議会では各団体の活動紹介や交流が行われている。今後、地域課題の解決や新たな担い手の登場に期待するがいか(答)方向性として市内各地域での開催を念頭に置いている。強制的にならない視点を大事にしつつ地域課題を共有し解決に向かう手法を考える

◆認知症の理解、見守りを地域全体に広げるために「徘徊見守り体験」は、実際に出向いて実施し、広く周知することを提案。

人口減少待ったなし 未来を見据えた国分寺を



自民党新政会 本橋 たくみ

●市庁舎の建設について
本橋) 今年度の庁舎建設に向けた取り組みについて問う。市) 庁舎建設に向けた基本構想の策定を行い取り組みを行っていく。

●人口減少問題について
本橋) 出生率向上の取り組み、多世代同居の取り組み、待機児童の取り組み等を進めていきながら、それぞれの自治体の努力で人口減少に歯止めをかけていく必要があると考えるが市の認識を問う。また妊娠期からの切れ目のない支援の一環であるゆりかご・こくぶんじについてどのような反響があるのか問う。市) ご指摘のとおりあらゆる政策を組み合わせながら努力をしていく。

●都市計画公園について
本橋) 市では、大きな都市公園が少ない、東側に集中している。住環境向上のため計画的に大規模な都市計画公園を整備していく必要がある。市の考え方を問う。市) 課題として認識している。計画的に取り組むを行っていく。

●スポーツ施設について
本橋) けやき運動場の人工芝化を強く求めてきたが市の認識、現在の検討状況について問う。市) 必要性は認識している。見積り等を行い、

都の補助金を活用しながら今後も財政面を考慮しながら進めていきたい。

●公共交通のあり方について

本橋) 鉄道網の発展は、市の発展にも繋がることから、例えばJR武蔵野線を府中本町から南武線に乗り入れることもアイデアの一つであるとする。市の考えを問う。市) JRと協議を行っていき研究課題としていく。

公権力の行政は 市民と真摯に向き合う姿勢で



国分寺政策市民フォーラム 皆川 りうこ

●市長就任2期目。絶大な権力、権限を有す。皆) 市民への対応に職員ができない理由を先に説明、上から目線の物言いとの事例有。見解は？市長) 徹底されていないのは申し訳ない。市民目線、現場主義と常日頃から言っている。できないことを先に言うのではなく、どのようにすればできるか、いつやれるか、なぜできないか理由等きちんと伝えることを徹底していく。

●公民館運営審議会一本化されて初めての答申皆) 各館のサポート会議からの提案や意見も尊重したとある。市として答申への評価見解は？教育部長) 公民館50年の歩みを踏まえ、今後のあるべき姿の提言で非常に重い内容。出来る限り答申に沿った形で事業を進め検討していく。

●障害者地域生活支援拠点センター整備皆) 障害者の高齢化、重度化、親亡き後を見据えた地域で生活していくための重要な施設だ。相談基幹センターは「万葉の里」に委託し、来年の6月開所予定。今後、施設についての検討は障害者自立支援協議会の相談部会等小さな単位が良いのではないかと相談機関は「待つ」からアウトリーチの強化。議会へも適時報告を。福祉保健部長) 専門部会等でも意見を聞き関係機関と連携し支援機能の強化を図っていきたい。

●医療ケアが必要な障害者への支援充実を！福祉保健部長) 日中預かり事業に数名の利用者有り。今後も法人と継続的に協議し取り組む。

●面前DVとは？その背景、要因は何か？市民生活部長) 子どもの目の前でDV。ジェンダーに基づく固定的価値観の影響有。男女平等の視点による表現のガイドラインの公表を進める。

街灯の新設・保育希望数の 動向・非正規問題



国分寺政策市民フォーラム 星 いつろう

●暗い夜道を照らす「街灯の新設」にむけて星) 「暗いうえに人通りが少なく、夜になるとちょっと怖いと思う場所がある」とのご意見をいただいた。街灯の設置を希望されているが、この時、市民のみなさんはどうすればいいのか。市) 建設環境部・道路管理課が、相談窓口となる。市管理の設置基準の原則は、電柱につけるものは20m以上の間隔、独立鉄柱につけるものは10~20mの間隔となっている。

●保育所入所希望者数増大への対策を星) 入所希望者数の動向をどう考えているのか。市) 保育の利用率(対象年齢人口数/入所者数)は、当市では2009年度21.6%から2017年度41.0%へと2倍になっている。都は、利用率50%を想定し保育所の整備を図ると考えているので、

当市も同様の目標を掲げて計画していく。
星) 当市における待機児童の保護者は、求職中の方が少なくないとお聞きしている。出産後仕事に就いていない母親の86%が就業を希望し、その理由は「経済的なもの」が52%となっている(国の調査)。市民の生活を守る観点からも待機児童の解消をより進めるべき。

●非正規公務員の新たな処遇制度について

星) 法改正により2020年4月より臨時非常勤職員に対して、各種手当を支給できるようになる。この財源確保をどう考えているのか。
市) 現在は未定だが、国・都の情報をしっかりとキャッチし、取り組んでいきたい。
星) 期限の定めのある雇用による「不安定さ」の解消は、市民サービスの向上にもつながる。「有期雇用」の是正をぜひ検討をお願いしたい。

若者参画ですすめたい、 国分寺のまちづくり



国分寺・生活者ネットワーク 秋本 あすか

◆産官学の連携秋本) 東経大・国分寺地域連携推進協議会での連携も背景に、学生の市内ボランティア活動等への参加が進んでいる。この繋がりを活かし、東経大の学生に市のまちづくり懇談会やワークショップ等へ更なる参加の働きかけを。答) 実行委員形式では学生の自主的な参加もみられる。多くの場面で参加を働きかけていく。秋本) 市民に身近な地域課題を取り上げ、より多くの市民との連携を深めていただきたい。答) フォーラム等を通じ、多くの市民の関わりは可能。また東経大のみならず、市内の多くの学生の参加を進めたい。

◆若者のまちづくり参加秋本) 若者参画の機会の充実が大切だ。若者の居場所づくりは、環境整備だけでなく運営も若者参加型で進める検討を。答) 現状スペースもなく、若者の居場所の検討はまだ進んでいない。今後子ども若者が意見を述べる機会に、参画の視点も必要と考える。秋本) 若者の主体的なまちづくり参加を促すために、若者チャレンジ補助金のような若者対象の活動支援の仕組みづくりを提案したい。答) 現時点では、大学との連携を進め学生の意見を取り入れるところから取り組む。

◆食品等の放射性物質濃度測定について秋本) 市民の生命と健康を守るために、測定の継続は重要。子どもは特に影響を受けやすいため、新設の保育園に測定の働きかけを。また持ち込み分の測定ができる事を、あらためて市民に周知を。答) 食に対する市民の安全安心の確保、適切な情報提供、風評被害の未然防止のためにも、今後も各課と連携を図り測定作業を継続したい。周知は総合的に担当で検討し考えたい。

子どもの権利の視点から、 保育環境の整備を



国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代

■保育園■岩永) 新制度では市町村が地域の子育て支援事業の実施主体となった。昨年の児童福祉法の改正で第1条に「全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり」と明記される等、初めて子どもが権利の主体として位置づけられた。「世田谷区保育の質ガイドライン」は、
次ページに続く▶